

式 辞

本校の伝統である**桃の節句**の日の卒業式を、挙行できますことを大変うれしく思います。

しかしながら、例年であれば、多くのご来賓や保護者の皆様、そして在校生が参列する中での卒業式が、大変残念なことです。今年は感染症対策のため、このような形になりました。

式典の形はどうであれ、本校関係者と共に卒業生の皆さんに心からのお祝いと、「はなむけ」の言葉を贈ります。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

只今、卒業生の皆さん 二五〇名の総代に、卒業証書を授与いたしました。本校での三年間の高校生活が、皆さんのかけがえのない、これからの人生に大きな力となることを願っています。

皆さんの保護者の皆様は、深い愛情をもって、皆さんの

成長を育んでこられました。保護者の皆様は、今日の皆さんの卒業式に参列していただくことができませんが、ご臨席いただいている、後援会の有馬会長は、卒業生の保護者の皆様の代表でもいらっしゃいますので、すべての保護者の皆様へのお祝いと私たち本校関係者の感謝の気持ちを、有馬会長に申しあげたいと思います。

皆様のご息女のご卒業、誠におめでとうございます。そして三年間にわたる、本校教育活動へのご理解とご支援に、あらためて心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

同じくご来賓の、本校同窓会「若葉会」の橋下会長には、常に本校および、在校生へのご支援をいただいていることに、心から御礼を申し上げます。今回の卒業生二五〇名の正式な入会式が開催できなくなりましたが、どうか新たな会員とともに今後も本校への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

さて、本校は九州女子高等学校を引継ぎ、福岡大学
附属若葉高等学校として二〇一〇年に再出発しました。
そして昨年度まで、実に百十二年にわたる「女子教育」の
長い歴史と伝統を継承してきましたが、若葉高校となっ
て十年目を迎えた今年度、男女共学校になりました。

思い起こせば、皆さんが入学して、最初の一学期が終
わろうとする、七月十二日の午後、全校集会で、私は皆
さんに本校の共学化が決まったことを伝えました。皆さ
んにとっては突然のことでした。それぞれの思いは、さまざ
まであつたと思います。

皆さんが二年生になった、昨年度の一学期の始業式で、
私は、「女子校としての最後の一年を、素晴らしいものに
しましょう」と、皆さんに呼びかけました。皆さんは、全
員でそれに応え、勉学はもちろんですが、部活動に、学
校行事にと、全力で取り組み、本当に素晴らしい女子校最
後の年にしてくれました。

また、共学化の初年度である今年度の一学期の始業式

では、「皆さん自身が、新入生とともに、新たな若葉高校を作り上げてほしい」と、私は述べましたが、皆さんは最上級生として、男女ほぼ同数の、多くの新入生を温かく迎え入れ、新たな若葉高校のために力を尽くしてくれました。

皆さんにとって、予期しない突然の大きな変化でしたが、共学化を前向きに受け止めて、努力を続けてくれたことに、心から感謝しています。

本校は女子校から共学校へと大きく変わりましたが、百十二年間続いた女子校の素晴らしい伝統を引き継いできたのは、今ここにいる卒業生の皆さんです。

私は皆さんの入学と同じ、三年前の四月に本校に着任しましたが、この三年間、素晴らしい生徒の皆さんと一緒に本校で過ごすことができました。生きいきと、そして、澁澂として、優しさに溢れる皆さんから、私はたくさん元気と勇気と、そして、やる気をもらいました。本当に心から感謝しています。

ところで、これからの私たちの社会は、急速に変化していくと考えられています。いったいどのような社会になっていくのでしょうか。そしてまた、例えば今、猛威を振おうとしている新たな感染症に、どう対処すればよいのでしょうか。

人類は、全ての人々がより豊かに、そして幸福に生きていくことを願って、社会を発展させてきました。しかし、その願いに反し、時として予期しない事態が起き、また望ましくない風潮も現れます。

そのような時にこそ、物事の本質をしっかりとらえ、目の前の状況や安易な風潮に流されることなく、生きていくことが大切です。

自らの強い意志をもち、自ら正しく判断し、正しく行動すること。これは容易ではありませんが、急速に変貌し、そして予測しがたいこれからの社会を生きていく皆さんにとって、とても大切なことです。

同時に、多くの人々によって支えられている私たちの社会が、これからも、より良い方向へと発展していくためには、自分のことだけではなく、他者への配慮が必要です。

さらに「人」だけでなく、私たちが生かされている、自然に対しても「優しさ」という配慮が必要です。それによつて、これからも私たちの社会を維持していくことができるのです。

本校の校訓、「強、正、優」、強く、正しく、優しく、は一九二七年に制定されました。したがってこれは、当時、昭和初期のわが国をめぐる社会情勢を反映したものではありませんでしたが、この校訓の言葉は、これからの社会を生きていく私たちにも大切な示唆を与えてくれています。

卒業生の皆さんは、これからそれぞれの道へと進みますが、本校の校訓「強・正・優」を忘れずに、しっかりと力強く、そして正しく、しかも思いやりの心をもって生きていくください。本校の校訓をしっかりと体現する皆さんを、卒業生として今、送り出すことに、私は誇りと喜びとを

感じています。

最後に。皆さんの今日の卒業式は、皆さんを支えてきてくださったご家族や、指導していただいた先生方、さらに「若葉会」の皆様をはじめ、多くの方々の支えによって迎えることができました。どうかそのことを忘れず、ご家族をはじめ、お世話になった方々に、皆さんからの感謝の言葉をぜひ伝えてほしいと思います。

今日、この若葉高校から新たな世界に向かって羽ばたいていく卒業生の皆さんには、素晴らしい前途が広がっていると私は確信しています。どうぞ全力で羽ばたいて、自らの素晴らしい人生を築いてください。

卒業生の皆さんの、ご健闘、ご活躍をお祈りします。

令和二年三月三日

福岡大学附属若葉高等学校

校長 今野 孝